

## 事故防止のポイント!

高齢者が起こしやすい事故には特徴があります。その特徴を理解し、常に心掛けることが、その事故を起こさないことにつながります。ここでは、その「起こしやすい事故」について、対策のポイントと併せてご紹介します。

### ①追突事故

高齢者が起こす交通事故の中で、最も多い事故が追突事故です。特に、渋滞気味の道路で、前の車の減速や停止に気づくのが遅れての事故が多くなっています。緊張感の薄れによる考え事やちょっとした脇見も事故につながっています。

このような事故を起こさないためには、常に緊張感を持って運転することが大切です。前方の車に気を配り、すぐにブレーキを踏める状態で運転するようにしましょう。

### ③右折時の事故

高齢者が起こす事故で、信号がある交差点で多く発生しているのが右折時の事故です。対向車線の状況をしっかり確認しないで右折したり、視力の低下などにより対向車との距離や対向車の速度を見誤りやすいことが原因になっています。

対策としては、焦らず、対向車が通り過ぎるのを待ち、安全確認してから右折することが大切です。

### ②出会い頭の事故

高齢者が起こす事故で2番目に多いのが出会い頭での事故で、信号のない交差点で多く発生しています。特に、日常的に乗り慣れた場所での事故が多くなっており、油断により安全確認がおろそかになりがちです。

対策としては、走りなれた道でこそ、安全確認が大切です。左右確認、一時停止を改めて意識的に行いましょう。また、自分が優先道路を走っていても、相手がきちんと停止するかを確認しましょう。

### ④その他の事故

その他に多い事故としては、特に夜間や悪天候時での「歩行者との接触事故」や「単独事故」があります。夜間や悪天候時などの視界が悪い日には、無理に運転しないことも事故を防ぐ方法の一つです。

また、「高速道路での逆走」も近年増えている事故の一つです。高速道路に侵入する際は、表示板などをしっかり確認することが大切です。



▲リーフレットを手渡す添田会長(右)と受け取る小坂会長(左)

### 様々な取組

高齢ドライバーの交通安全対策として、様々な取組が行われています。町の交通安全協会(井土川好高会長)と交通安全母の会(添田喜美代会長)では、町老人クラブ(小坂三吉会長)と連携して、高齢ドライバー向けリーフレットの配布や交通安全教室などを行っています。リーフレットは、町役場や勤労青少年ホーム、老人センターにも配置しますのでぜひご覧ください。

### 地域全体でサポートを

今回は、高齢ドライバーが交通事故を起こさないための心がけや取組をご紹介します。また、自分の運転に危険を感じた時には、自主返納という勇気を持つことも大切です。「高齢者と運転」の問題は、高齢者だけの問題ではありません。地域の一人ひとりが高齢者を思いやる気持ちを持ち、地域全体でサポートしていくことが、高齢者が安全で安心して暮らせるまちづくりにつながるのではないのでしょうか。

## 【特集】改正道路交通法から考える

# 高齢者と運転について

近年の高齢ドライバーによる交通事故が問題視され、平成29年3月12日に改正道路交通法が施行されます。今回の改正で高齢ドライバーに対して厳しくなる道路交通法から、高齢ドライバーの交通事故対策について考えます。

### 改正道路交通法

平成29年3月12日施行の改正道路交通法で、75歳以上の高齢ドライバーは認知機能が厳しくチェックされるようになります。変更点は次の2点です。

- ①免許更新時に「認知機能検査」を受ける必要があり、検査の結果に応じて「専門医の診断」や「高齢者講習時間の延長」が義務づけられます。
  - ②信号無視や逆走など、認知機能が低下したときに起こしやすい違反行為をした場合は「臨時認知機能検査」を受けなければなりません。
- 高齢化社会が深刻化している現代社会では、今後も高齢ドライバーによる事故が問題視され、ますます高齢ドライバーへの規制が厳しくなっていくことが予想されます。

### 高齢者の事故状況

町内の過去10年間の高齢者(70歳以上)による交通事故の状況を見ると、明らかに増加は見られません。しかし、

### 自主返納という選択肢

運転に不安を抱える高齢ドライバーが運転免許証を返納することができる「運転免許返納制度」が1998年から導入されており、運転免許センターや警察署などで申請することができます。

しかし、車は生活の一部になっており、すぐに自主返納というのは現実的でない方がほとんどです。特に、家族のサポートが受けられない一人暮らしの高齢者にとっては、買い物や病院に行けなくなるなど、生活がままならない状況になってしまいます。



しかし、全国や県内の状況をみると、高齢ドライバーによる事故の割合が高くなっているのは事実です。

### 事故を起こさないために

年を重ねるにつれて、安全運転に必要な心身機能は確実に低下していきます。交通事故を起こさないようにするためには、加齢により心身機能の何がどのように低下するのかを理解しておくことがとても大切です。

- 視力の衰え  
「視力が低下する」「視野が狭くなる」「暗い場所でもが見えにくくなる」など、加齢に伴い、視覚機能は確実に低下していきます。危険を見落としやすくなることを自覚し、左右や後方の確認などを改めて意識的にいきましょう。
- 判断力の衰え  
加齢に伴い、危険を察知してからブレーキを踏むまでの反応時間は確実に伸びます。安全運転を意識し、急ブレーキを踏む必要がないよう心がけることが大切です。

また、判断力の低下により、ブレーキとアクセルを踏み間違ったり、急発進をしたなどの誤操作もしやすくなります。これらの誤操作を防ぐためには、操作の前にはしっかりと確認することが大切です。

### 須賀川ドライビングスクール 高橋 英生 校長



高齢者講習をする中で多い事例として、「信号無視」「一時停止の見落とし」「不十分な安全確認による接触」などがあります。もちろん判断力や運動能力などの低下はありますが、どれもしっかりと確認すれば防げるものです。「加齢」ではなく「過信」が事故につながる場合もあります。加齢を自覚し、事故を起こさないような運転を心掛けてほしいと思います。

- ①体調不良の時、夜間や悪天候の際には無理に運転しない。
- ②家族、友人などを助手席に同乗させ、助言や安全確認の補助をもらう。
- ③後退する場合は、同乗者等に誘導してもらおう。

これらの注意事項を守り、悲惨な事故を起こさないようにしましょう。